

山城國
愛宕山

妙高山 筑波山 赤城山 白峯嶽 雲邊 膽吹山 春振山 霧島 大山相模 妙義山

〔伊呂波字類抄國安〕愛宕護山山城葛野郡七高山之一也

〔書言字考節用集二坤〕愛宕山山城葛野郡號手白山白雲寺祭神二坐伊井册尊火產靈尊本地勝軍地藏

〔國花萬葉記二下〕愛宕山 王城の正方西也、行程三里餘、京三條通より西へ出て、さいしやうがはら、惟子の辻、太秦、さが迄二里也、さが中の院より一の鳥居にかゝる、是より坂道五十町也、試の峠、爰にくつかけの松有、清瀧川橋有、火打權現清瀧より四丁境の松迄五丁目、是より高雄榎尾みゆる、杉の本は大なる杉有、是より月の輪觀音堂みゆる、日ぐらしの瀧あり、是より興にかはらけを谷間へなぐるなり、大岩二十六丁目、是より丹波龜山の城みゆる、下の茶屋上の茶や、此所ちまきの名物也、

〔倭訓栞中編一〕あたご 愛宕をよめり、神名式に、丹波國桑田郡阿多古神社とみゆ、○中登壇必究にも、日本愛宕山と見えたり、今は山城に屬せり、一説に、神社もと洛北鷹峯の東に在しを、光仁帝の元年に、慶俊今の地に移して、愛宕護山と號すといふ、

〔山城名勝志九上〕愛宕護山

諸社根元記云、西ニ八咫ノ嶺アリ、日、神岩戸ヲ出サセ給フ、其御光ノサシムカフケシキ、八咫ノ鏡ニ顯レタルヲ、名付テヤタノ峯ト云フ、後世ノ人アタゴノ山ト云、拾遺なき名のみ高をの山といひ立る人はあたごの峯にや有らん、八條おほい君、玉吟我宿はそなたを見てぞなぐさむる誰かあたごの山といひけん、家隆、

〔國花萬葉記二下〕鞍馬山 都の北に當りて行程三里也、寺町通北の頭くらま口より、御ぞろ池畑枝と云在所へかゝり、市原村へ出る、又室町通よりかもへ行すぐに、市原へ出る道有鞍馬山下向に僧正が谷へ出、きぶねへ出ル道者、僧正が谷に義經の名跡數多有、

鞍馬山